

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200078		
法人名	医療法人社団 有相会		
事業所名	グループホームかしわい		
所在地	千葉県千葉市花見川区柏井町1132番地1		
自己評価作成日	平成29年10月28日	評価結果市町村受理日	平成30年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成29年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地内でゆっくりと散歩を楽しむことが出来、花々や木々の移り変わりから、肌で季節を感じる事が出来、ゆったりと穏やかな生活を送ることができます。敷地内に系列施設の託児所があり、子供たちと触れ合う機会や看護学生、近隣の中学生・高校生の職場体験やボランティア訪問など若い人たちとの触れ合いもあります。同法人内に病院が併設されており、入居者様の急な体調変化にも迅速に対応することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が看護師でもあり、日常の健康管理と緊急時の対応は行き届いている。地域と積極的に繋がりを持つとしており、特に近隣の学校との交流が盛んで、職場体験や実習の場として施設を提供している。ホームでは職員の資格取得も奨励しており、支援している。また、月1回市の介護相談員が訪問しており、利用者の思いを聞いており、サービスに活かすようにしている。入居前は不安や心配な気持ちが強かったが、ホームで生活する中で、明るくなり体調の改善が見られた事例もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『穏やかな笑顔』をキーワードに理念を職員の目に入るところに掲示し、利用者をひとりにはしない、無理強いしない、その人らしく過ごせるように支援します。	管理者及び職員は「家庭的な生活環境を提供します。地域社会とのつながりを重視します。利用者お一人お一人の権利を尊重します。」という理念が利用者の「笑顔」につながるように日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校のお祭りに参加したり、近隣高校の文化祭に参加したり、中学生の職場体験や看護学生の実習の場としても提供、地域の方のボランティアも来ていただいています。	町内会に加入し、地域の各種イベントに参加している。また、近隣の学校とは積極的に交流を持つようにしており、一定期間、週1～2回の頻度で看護学生を受け入れ、実習の場として提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中のご挨拶や、併設の施設の夏祭り・秋祭りバザーにお誘いしたり、町内会のお祭りに参加するなどしています。家庭菜園での野菜をいただいたりお裾分けをして、お付き合いをさせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族の参加で3ヶ月に一度、推進会議を開き、地域の方の意見や、家族の要望を聞き、サービス向上に努めている。不参加の家族には、議事録を送り報告をしています。	3か月ごとに開催し、利用者の家族も多く参加している。議論も活発で、議事録のコピーは家族に送付してホームへの理解を深めてもらうようにしている。地域からの参加もあり、情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修会に参加したり、近隣のグループホームと連絡を取り、情報交換を行っています。	運営推進会議には地域包括支援センターが出席しており、意見交換をしている。また、行政が主催する研修には職員が出席し、情報を得るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止指針をホーム内に掲示し、職員に周知しています。内部研修を行い、身体拘束を行わないケアを実践している。玄関も夜間以外は施錠しないようにしています。	身体拘束、虐待については毎年内部研修を実施し、理解を深めるようにしている。また、言葉遣いなどで気になることがあった時には、職員同士で気付き合い話し合えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束がもたらす多くの弊害、身体拘束廃止の継続を確認し合う話し合いを持っていく。身体拘束、虐待防止の研修に参加しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を取り寄せるなどして成年後見人制度に関して、理解を深めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分説明し、又入居に関してご家族が納得、理解できるように連絡を取り合います。リスクや重度化、看取りについては指針に基づいて説明し理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一人一人への声掛けを大切にし、ひとりにはないケアを行っており、入居者の思いの把握に努め、ご家族が面会時、運営推進会議で意見や質問に答え、運営に反映できるように心がけています。	家族が来訪した時には、お茶を出したり昼食を家族も交えて摂るなどして、普段から意見を言いやすい環境をつくるようにしている。また、利用者の意向は「お楽しみ会」などの場で聞き取るようにしており、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを行い、職員の意見を聞く機会を設けています。また朝の申し送り時、時間を設けて、話し合う事もあります。	毎月全員でミーティングを行っており、職員の意見を聞く場となっている。また、運営に関する事項でも気づいたことは申し送りノートに記載することもあり、それについて話し合うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学びたい事、興味のあることなどを把握し、資格取得の機会や、勉強会、試験日等の調整をしています。各自が頑張っている様子に、声掛けしたり、向上心を持って働けるように、応援したりしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からの希望を取り入れ計画的に研修を受ける機会を持ち、法人、及びホーム内での勉強会も推進しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームなどと交流を持ち、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に入居者に声掛けをして、不満や苦痛を早くに気付き対応できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月に一度、入居者さんの状況報告をして、面会時などに、ご家族の要望などを引き出し、苦情対応、状況説明に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の個性を大切に考え、困っている事や、不安に感じている事など、時間をかけて傾聴し、心情を探りながら、聞く機会を多く持つようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に寄り添いたくさん話を聞き、感謝したり、いいところを褒めてあげたりの会話が 多く、趣味の物づくりも一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係は、認知の症状や、問題等を共有し、お互いの思いを言ったり、聞いたり、日常の支援をご家族と共に創っていかれるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の話やお孫さんの話など会話の中に入れ、若い時の話や、季節、地域の行事などの違い、趣味の話題など、入居者が、話しやすい話題を提供しています。近隣のお友達も沢山面会に来ていただいています。	家族や親戚が来訪した時には、お茶や漬物を出して時には会話に加わるなどして歓迎している。また、趣味の仲間と会うなどこれまでの関係性が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味やし好を把握して、会話やレクに取り入れたり、入居者同士で楽しめるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院になられた方が、戻ってこられるように本人や、ご家族の方と話し合いの場を設けています。また、入院された方のお見舞いは定期的に行っております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者、ご家族の希望や、意向を伺い、家庭的な雰囲気の中で生活できるように支援しています。	入居前に管理者とケアマネジャーが自宅を訪問し、本人、家族の意向や要望を聞くとともに家庭環境の確認を行い、できるだけ自宅と同じような環境で過ごせるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけこれまでの生活環境に近い暮らし方が出来るように支援しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の小さな動作や心理面を見逃さないように情報を共有して支援します。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望をもとにして、職員の気付きを話し合った上で、介護計画を作成しています。また、定期的にモニタリングして、変化があれば対応するようにしています。	介護計画作成前に各フロア会議で支援内容について話し合ったり、居室担当者の意見を聞いている。また、担当者会議を開催し本人や家族の意見や要望を聞いたうえで、介護計画を策定している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自個人ファイルに食事、排泄、保清、身体状況等を記録し、また、その日の様子を記録しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院等は家族と連絡を取り、協力して行っています。入院時も洗濯物の入れ替えや、面会に行くなどして、落ち着いて治療が受けられるように支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議を通じて、各機関と連携を摂り、ご指導頂きながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人系列病院があり、医療面の連携、協力体制があり、入居者や家族の安心に繋がっている。また、契約書にも必要時には、「利用者の主治医または事業者の協力医療機関において必要な治療が受けられるよう支援します」と記載している。	入居時に本人、家族の同意を得たうえで、法人系列の病院をかかりつけ医にしている。かかりつけの専門医への通院は家族に同行を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護資格を有しており、体調管理や医療面での相談、健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族との相談のもと、早期退院に向けて対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の協力や希望があれば看取りについても契約時に説明している。過去に看取りの経験があり、スタッフ、入居者共に見送ることが出来ました。協力病院、主治医、家族と相談しながら支援体制をとっています。	契約時に重要事項説明書を用いて説明をし、終末期における対応について同意書ももらっている。利用者が看取りの段階になった時は重度化・終末期ケア対応指針で説明をして、家族と話し合いを行いながら希望に沿えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に緊急時の対応について研修を受け、各自が対応できるように勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火設備や警報設備が整い、消防署の指導を受けながら防災訓練を行っています。夜間を想定した、避難訓練について、意識付けをしています。	消防署立会いのもと、初期消火や通報方法を確認している。避難訓練は夜間を想定して行っており、職員は避難方法や避難経路について熟知している。また、近隣住民や自治会、同法人の他施設との協力体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重についても掲示し、スタッフは意識しながらケアにあたっています。	利用者のプライバシーに配慮し、一人ひとりを尊重したケアの実践に努めている。不適切な言動があった場合は主に管理者が指導しているが、職員間でもお互いに気をつけるようにし利用者を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの理解力やコミュニケーション能力に合わせた話かけを行い、解かしてもらえるように支援し、常に主体性を尊重し、自己決定、または、決めてもらえるような働きかけを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢での散歩やレクの時にも表情や状態などに気を配り、外出などの希望がある時にはすぐに対応できなくても約束をして対応するように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣など介助が必要な方でも本人の意向に沿うように支援しています。希望により、髪を染めてあげることもあります。月に2回マニキュア日を設けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とスタッフが一緒に食事を摂り、畑で収穫した野菜と一緒に調理したり食事を楽しむ事もあります。	月1回実施しているお楽しみ会は、利用者が中心になって野菜を切ったり、おやつのおトッピングをする等している。お楽しみ会を楽しむとともに利用者の持っている力の継続にもつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握をし、食事形態などを工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きなど、声掛けをして習慣づけるようにしています。自分で出来ない方には、スタッフが介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見てトイレ誘導しています。	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、時間を見て誘導するとともに利用者の様子から職員が察してトイレ誘導する場合もある。頻繁にトイレに行く利用者もいるが、その都度職員が見守り、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便について記録し、水分摂取に注意し、日中は散歩や体操を取り入れて身体を動かすようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な方には、安全面に配慮しその方に合った介助方法を工夫しています。週3回の入浴が基本ですが、希望があれば毎日、状況に応じて臨機応変に対応しています。	利用者の清潔や衛生面に配慮し、週3回は入浴してもらうように支援しているが、希望があれば毎日の入浴にも対応している。介助が必要な利用者は2人体制で支援する等して利用者が安全に気持ちよく入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中の外気浴、散歩、テレビを活用したラジオ体操、午後から行う、リズム体操・リハビリ体操体を動かす事により、穏やかな睡眠が得られるように支援しています。休息が必要な方には午睡を取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに、薬の内容、副作用等スタッフが理解できるようにし、薬に対する状態の変化について直ぐに管理者に報告する体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭掃除、洗濯物を畳んだり、食器拭き等、各自が得意なものを発揮してもらえるように働きかけをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩を毎日の日課にして、外出の機会を増やし季節を肌で感じてもらえるように工夫しています。また家族の支援を得て、食事に出かけたり、お墓参りに外出されたり、旅行に出かけられる方もいます。	天気の良い日は散歩を日課として、外気浴や季節の移り変わりを楽しんでいる。家族と外食や旅行等に行く利用者もいる。また、近隣のお祭りや高校の文化祭、系列法人施設のお祭りや催し物にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持っている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいます。お友達と手紙、絵葉書のやり取りをしている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのリビングにはゆったりと出来るように家具を配置し、室温、湿度、に配慮しています。また季節感を取り入れた飾りつけをするように工夫しています。	共用空間は掃除が行き届き清潔である。また、温度、湿度に配慮し、適切に管理している。また、車いすの利用者が安全に移動できるよう環境整備をしている。季節感のある飾りつけもされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人と、ゆったりとおしゃべりをしたり、趣味の事をしたり、レクやお茶をいただきながら、潤いのある環境づくりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みの制限はもうけておらず、馴染みのものや、写真を飾ったり、小物を置いて、心地よく生活できるようにしています。	居室への持ち込み制限は行っておらず、利用者の使い慣れた物や好きな物を持ってきてもらっている。また、部屋の飾りつけは本人と居室担当で話し合い、居心地のよい居室となるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを付け安全面に配慮しています。歩行困難な方には、車椅子を用意し活動的に生活できるように工夫しています。		